

すごい point

- ・日本五大名飯に選ばれた可児の郷土料理だよ。

可児には、「さよりめし」という郷土料理があります。

さよりめしは、私たちの住んでいる可児市をふくむ、ちゅうのう中濃・とうのう東濃地区で、ごちそうとして食べられていた炊きこみご飯です。秋の収穫を祝うときや、家でお祝いごとがあったときに特別につくるもので、ぜいたくな料理でした。



「可児ッテ」で販売されたさよりめし

◎どうして「さよりめし」って呼ぶの？

「さよりめし」には、「さより」という魚ではなく「さんま」が使われています。

「さより」と「さんま」は、あまり似ていませんが、どちらも「だつ」という細長くてとがったかたちをしている魚の仲間です。

海が近くにない可児の人は、海の魚について細かな区別をせず、本当は「さんまめし」であっても「さよりめし」と呼んでいたようです。

◎生活の知恵が生んだ「さよりめし」

家に冷蔵庫がなかった時代、なまざかな生魚はすぐに腐ってしまうので、可児の人たちは新鮮なお刺身を食べることができませんでした。海の魚は遠くからやって来る行商人から、ぎょうしょうにん干物や塩漬けにしたものを買っていました。さんまをご飯に炊きこむ「さよりめし」は、新鮮ではない魚をおいしく食べるための、可児の人たちの工夫でもあったのです。

◎五大名飯に選ばれろ

この「さよりめし」は、昭和14年(1939)に宮内省(現在の宮内庁)が選んだ「日本五大名飯」に、「ふかがわ深川めし(東京)」、「ちゅうしちうずめめし(島根)」、「さいたま忠七めし(埼玉)」、「おおさかかやくめし(大阪)」と並んで選ばれています。これは、国が選んだ元祖ご当地グルメともいえます。

現在、「さよりめし」を作る家庭は少なくなりましたが、市のイベントや道の駅「可児ッテ」において、秋～冬限定で再現されたものを食べることができます。

—可児のむかし話 「福さとキツネとサヨリめし」—

「可児のむかし話」に「福さとキツネとサヨリめし」というお話がのっています。これは、病気で寝こんでいた福さのばばさまに、ぜんだいじやま禅台寺山のキツネがのりうつって「さよりめし」を食べるといってお話です。キツネの助けを借りて、おいしい「さよりめし」をたくさん食べた福さのばばさまは、病気がなおって元気になりました。「さよりめし」はキツネも食べたくなるようなごちそうなのでした。



文化創造センター ala (アーラ)



主劇場・宇宙のホール

すごい point

- ・だれでも気軽に利用できる、^{げきじょう}劇場施設だよ。
- ・市民一人ひとりが主役！市民参加型の事業がたくさん行われているよ。

アーラ（可児市文化創造センター）は、建設計画や運営に市民の意見と参加を取り入れて平成14年（2002）にオープンした文化施設です。アーラは、人としてだれもが主役となる場所です。

アーラには、主劇場「^{げきじょう}宇宙のホール」と小劇場「^{にじ}虹のホール」の2つの劇場があり、音楽会や演劇、^{しきてん}式典などさまざまなイベントが催されています。可児市小学校音楽会もアーラで行われています。

専門的な設備と優秀なスタッフに支えられたアーラの劇場は、国の「^{とくべつしえんげきじょうおんがくどう}特別支援劇場音楽堂」に選ばれています。このような施設は、全国でも15か所だけなのでアーラは全国トップレベルの劇場であるといえるでしょう。

アーラには、劇場のほかにも、練習する部屋、会議する部屋、映画をみる部屋、展示する部屋、レストランなど、たくさんの部屋があり、いろいろな用途でだれでも利用できることが魅力です。

◎市民一人ひとりが主役

大きな劇場のあるまちは、たくさんあります。しかし、可児市のアーラが日本中のどの劇場施設よりもすごいところは、なんととっても市民とアーラ、そして文化・芸術との距離がとても近いところです。

一流の音楽家や歌手、落語家や俳優が公演するアーラですが、みなさんは客席に座ったことだけでなく、ステージに立ったこともあると思います。

市民が一流のアーティストと同じ舞台、同じ環境で活動することや、プロの俳優やスタッフと一緒に作品をつくりあげることでもできるアーラは、可児市が世界にほこるべき文化施設です。

市民ミュージカル
「君といた夏 ～スタンドバイミー可児～」



こども110番の家（広見地区）



こども110番の家（店舗）

すごい point

- ・日本全国にある「こども110番の家」は、可児市で最初に始まったんだよ。
- ・現在、可児市には全部で603か所のこども110番の家があるよ。

◎「こども110番の家」って何をするとこ？

「こども110番の家」とは、みなさんが登下校中や友達と遊んでいて、知らない人にあとをつけられたり声をかけられたりして、不安や危険を感じた場合に助けを求めることができる場所のことです。「こども110番の家」では、まずはみなさんを保護した後、すぐに警察と学校、お家へ連絡してくれます。

みなさんの通学路周辺の民家やお店などが、「こども110番の家」になっています。

◎全国で最初に可児市で始まる

この「こども110番の家」が設置されたのは、日本全国で可児市が最初でした。

平成8年（1996）3月に、今渡北小学校のPTAが中心になって始まった「こども110番の家」の活動は、みなさんの安全を守り犯罪を未然に防ぐ大切な活動として、全国各地に広がりました。

現在、こども110番の家は可児市内に603か所あります（R4.3現在）。

可児市では、毎年、小学校区ごとに「こども110番の家マップ」を作成し配付することで、「こども110番の家」がどこにあるのかをわかるようにしています。



こども110番の家マップ



可児市子育て健康プラザ mano (マーノ)

すごい point

- ・新しい命が、お母さんのおなかに宿^{やど}ったとき（マイナス10ヵ月）から、サポートするよ。
- ・様々な人が関わってみんなで子どもの育ちを見守るよ！
- ・子育てを担当するところが、1か所に集まった施設が可児駅前にできたよ。

可児市では、様々な方法で子育て家庭や地域^{ちいき}とつながって、元気な子はさらに元気に、心配がある場合は安心して子育てに向かえるように、個々によりそったサポートを行っています。

◎つなぐ子育て

子育てをするお父さんお母さんは、実は不安やなやみでいっぱいです。

そんなお父さんやお母さんが安心して子育てできるように、可児市では、赤ちゃん一人ひとりが生まれる前から、担当する保健師^{ほけんし}さんがいて相談にのってくれます。

また、成長の記録である母子健康手帳の情報が病院などで活用されたり、子育てに関するサービス情報をスマートフォンで見られる「かにかっ子ナビ」を配信したりしています。



かにかっ子ナビ

◎まなぶ子育て

可児市には、お父さんお母さんが子育ての大切さや知恵^{ちえ}を学ぶ機会が、たくさんあります。

家庭教育学級や、アーラや地区センターで開かれる子育てに関する事業を通して、みなさんが大きくなる前から、お父さんお母さんは勉強しているのです。

◎かかわる子育て

みなさんが安全に生活しゆたかに成長することを、キッズクラブや地区センター、児童センターの活動などを通して地域のおじさんやおばさん、おにいさんやおねえさんたちが、力を合わせて見守っています。

「つなぐ・まなぶ・かかわる子育て」を可児市全体ですすめていくための中心施設として可児市子育て健康プラザ mano (マーノ) が開館し、子育て世代をサポートしていきます。